

九州正教会だより

第66号



(福岡・熊本・人吉・鹿児島)

2025年3月1日発行

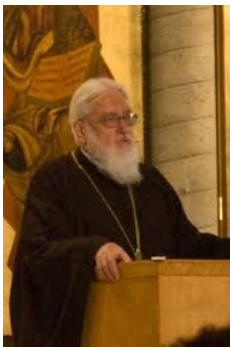
発行人：司祭グリゴリイ水野 宏

〒811-2232 福岡県糟屋郡志免町別府西 2-7-1

TEL / FAX 092-410-0540

mail ocj.kyushu@gmail.com

ウェブサイト <https://www.ocj-kyushu.com/>



大齋の目的

司祭グリゴリイ 水野 宏

正教会では3月2日の晩から、復活大祭を迎えるための準備期間である約7週間の大齋に入ります。齋の意味については、現代を代表する正教神学者のカリストス・ウェア府主教（上の写真）が、そのものズバリの題名の論文『大齋の意味』（日本語訳は西日本教区発行『私たちはどのように救われるか』に掲載）の中で記しています。

カリストス座下は「齋の第一の目的は我々に『神への依存』を自覚させることである」と書いています。つまり、私たちがこの世で生きていられるのは、一人ひとりが神から自分の自由な意思を授けられ、それで日々の糧を食べているからなのです。そもそも日々の糧も自分の生命自体も神から与えられたものです。しかし、毎日いつも好きなだけ飲み食いして勝手気ままに暮らしていたら、それは神から与えられた自由の濫用であって、自分が神のおかげで生かされていることを忘れてしまいます。そうならないために、特定の食べ物の自粛という「手段」によって「自分は神に生かされている」と思い出させるのが、齋の「目的」というわけです。

そしてカリストス座下は、この手段であるはずの齋が目的にすり替わって、「とにかく形通りにやればよい」という形式主義に陥っては無意味だということで、注意を促しています。

「齋は祈りがともなわないなら無価値で危険でさえある。（中略）旧約、新約両聖書において、齋とはそれ自体が目的ではなく、より熱心で生きた祈りを助けるものとして、また断固とした訴えのための、あるいは神との直接の出会いのための準備と見なされた。」

「祈祷と齋には施し — 実践された他者への愛、憐みと赦しの行為がともなわなければならない。（中略）大齋の始まり「赦罪の主日」晩課で、特別な相互和解の儀式があるのは偶然ではない。他者への愛がなければ真の齋はあり得ないからである。」

私たちはこれらのことを意識して、大齋期間を過ごすように一人ひとりが努めましょう。